

2024年度 大阪ベルエベル美容専門学校 プロフェッショナルアカデミー科 カリキュラム

| 科目 | 時間数 | 実務経験者が 行う授業 |
|----------|-----------|----------------|
| 必修 課目 | カット | ○ |
| | カラー | ○ |
| | ペーマ | ○ |
| | ブロースタイリング | ○ |
| | セット | ○ |
| | シャンプー | ○ |
| | 運営・接客 | × |
| | 集客 | × |
| | 特別授業 | × |
| | 小計 | — |
| 選 択 | 総合技術(サロン) | × |
| | ホームルーム | × |
| | ヒューマンスキル | × |
| | 小計 | — |
| 合計 | | — |

| 基本情報 | | | |
|-------|-----|-------------|----|
| 講義名 | カット | 実務経験のある者の授業 | ○ |
| 授業形態 | 実技 | 必修/選択 | 必修 |
| 授業時間数 | 1年次 | | |
| | 54 | | |

| 担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載) | |
|----------------------------|---|
| 職種 | 担当する教員の実務経験内容 |
| 美容師 | 社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。 |

| 授業内容 | |
|---------|---|
| 授業概要 | 社会に出て即戦力となるカット技術を身につける。授業で身につけた技術をサロン実習で活かし、実践力を養う。 |
| 授業の到達目標 | 展開図についての理解、基本スタイルの組み合わせの習得、カット技術の理解と習得。 |

| 項目 | 時間 | 内 容 |
|---------|----|---|
| ワンレンジス | 3 | シザーワーク(インサイド・アウトサイド)、ワンレンジスの工程、ブロッキング コーミング・テンション・パネルワーク、バンブカットの工程 |
| グラデーション | 3 | グラデーションボブの工程、セクショニング アウトラインのカット、パネルの引き出し方、ネープ・サイドのつなぎ方 ディストリビューション、オーバーダイレクション、始点と終点の確認、パネルの角度 姿勢 |
| レイヤー | 3 | セイムレイヤーの工程、セクショニング、BOXレイヤー、フロントレイヤー アウトラインのカット、パネルの引き出し方、ネープ・サイドのつなぎ方 ディストリビューション、オーバーダイレクション、始点と終点の確認、パネルの角度 姿勢 |
| 組み合わせ | 3 | グラセイム・グラレイヤーの工程 ディストリビューション、オーバーダイレクション、始点と終点の確認、パネルの角度 姿勢 アンダーセクションカット ミドルセクション・トップセクションカット サイド・フロントセクションカット チェックカット、注意点 |
| 展開図 | 4 | 展開図の考え方・描き方・使用用途 主要スタイルの展開図 |
| 毛量調整 | 4 | セニングの入れ方の違い、間引き・ライン・ポイント・セクショニング セニングの入れる角度、グラ・セイム・レイヤー・セクショニング スライスワーク、チップ・ピッチ、メンズスタイルの毛量調整 |
| 刈り上げ | 4 | 刈り上げの基本姿勢、コーム・シザーワーク セクショニング、2ブロックとグラデーションの違い オーバーセクションとのつなぎ方、注意点 チェックカット、注意点 |
| メンズスタイル | 12 | グラセイムの工程・手順 グラデーションの位置の確認・レイヤーを入れはじめる位置の確認 グラとレイヤーのつなぎ方のポイント アンダーセクションの切り方 ミドルセクション・トップセクションの切り方 サイド・フロントの切り方 ドライ後、毛量調節とバランスの取り方 シルエット形成(全体ラフ切り) 2ブロックスタイルのセクショニング 2ブロックの刈り上げの部分と被さる毛のバランスの取り方 サイド刈り上げ部分とバックサイドへの繋がり方 ミドルからオーバーへの繋がり方 2ブロックの毛量調整の仕方 |

| 具体的な内容 | | |
|---------------------|----|---|
| 項目 | 時間 | 内 容 |
| ロングスタイル作成 | 6 | バックアンダーのレングス設定からサイドアンダーへの繋がり アンダー・ミドルセクションの切り方 オーバーセクションとのつなぎ方 フロントレイヤーと毛量調整 ブロー後ドライカットでの質感の確認・調整 仕上げ・スタイリング |
| ミディアムスタイル スタイル作成 | 6 | バックアンダーのレングス設定からサイドアンダーへの繋がり アンダー・ミドルセクションの切り方 オーバーセクションとのつなぎ方 フロントと毛量調整 ブロー後ドライカットでの質感の確認・調整 仕上げ・スタイリング |
| ショートスタイル スタイル作成 | 6 | バックアンダーのレングス設定からサイドアンダーへの繋がり アンダー・ミドルセクションの切り方 オーバーセクションとのつなぎ方 顔周りとバングのつなぎ方・毛量調整 ハンドブロー後、質感の確認、ドライカットでの質感調整 仕上げ・スタイリング |

| 成績 | |
|------------|---|
| 成績評価の方法・基準 | 評価基準 |
| | 出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。 |

| 基本情報 | | | |
|-------|-----|-------------|----|
| 講義名 | カラー | 実務経験のある者の授業 | ○ |
| 授業形態 | 実技 | 必修/選択 | 必修 |
| 授業時間数 | 1年次 | | |
| | 72 | | |

| 担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載) | |
|----------------------------|---|
| 職種 | 担当する教員の実務経験内容 |
| 美容師 | 社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。 |

| 授業内容 | |
|---------|--|
| 授業概要 | 社会に出て即戦力となれるカラー技術を身につける。授業で身についた技術をサロン実習で活かし、実践力を養う。 |
| 授業の到達目標 | 毛髪理論習得、デザイン理論習得、希望スタイル別必要技術の習得、基本応用技術習得。 |

| 具体的内容 | | |
|-------------------------|----|--|
| 項目 | 時間 | 内 容 |
| グレイカラー 塗布方法 | 3 | 工程・ハケの使い方・塗布量 ブロッキング・手順・ストランドチェック方法 |
| ファッショナルカラー | 4 | 工程・ハケの使い方・塗布量 ブロッキング・手順・ストランドチェック方法 |
| 毛先塗布 | 2 | 工程・ハケの使い方・塗布量 |
| 薬剤選定 | 3 | グレイカラー・ファッショナルカラー薬剤選定(根本・毛先)の基本 |
| トーンアップ・トーンダウン | 3 | グレイカラー・ファッショナルカラー毛先トーンコントロールの考え方・方法 |
| 知識 | 3 | 捕色の関係・色相 |
| グレイカラー クオリティーアップ | 2 | グレイカラー塗布のタイムアップ |
| ファッショナルカラー クオリティーアップ | 4 | 1タッチ塗布のタイムアップ 2タッチ塗布のタイムアップ |
| 毛先塗布 クオリティーアップ | 2 | 毛先塗布のタイムアップ |
| ブリーチ | 7 | ブリーチ薬剤知識・扱う上での注意事項 ブロッキング・塗布順序・塗布方法 |
| ダブルカラー | 3 | ブリーチしたウイッグでダブルカラーグループ毎にビジュアルから薬剤選定 |
| インナーカラー グラデーション | 3 | インナーカラー・グラデーションの工程・手順 |
| ストレート | 3 | 知識・技術 |
| マニキュア | 6 | マニキュアの知識・理論 工程、刷毛の使い方、塗布量、 ブロッキング、手順、ストランドチェック方法 |
| ホイルワーク | 24 | セクショニングの取り方・各セクションの枚数、チップの取り方・ホイルの折り方 アンダーセクションへのホイルワークの実践、ミドルセクションへのホイルワークの実践 オーバーセクションへのホイルワークの実践、ロングホイルでの実践 スライシングの工程・手順・効果 バレイヤージュの工程・手順 チップとピッチの幅の違いの効果の実践 ホイルの枚数による違いの実践 前上がりバイアススライスでのホイルワーク工程・手順 縦スライスでのホイルワーク工程・手順 ホイルワーク応用、現場でよく使用するホイルスタイル |

| 成績 | |
|------------|---|
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。 |

| 基本情報 | | | |
|-------|-----|-------------|----|
| 講義名 | パーマ | 実務経験のある者の授業 | ○ |
| 授業形態 | 実技 | 必修/選択 | 必修 |
| 授業時間数 | 1年次 | | |
| | 81 | | |

| 担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載) | |
|----------------------------|---|
| 職種 | 担当する教員の実務経験内容 |
| 美容師 | 社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。 |

| 授業内容 | |
|---------|--|
| 授業概要 | 社会に出て即戦力となるパーマ技術を身につける。授業で身についた技術をサロン実習で活かし、実戦力を養う。 |
| 授業の到達目標 | 薬剤知識の理解、基本及び応用の巻き方の習得、パーマ薬剤知識の理解、スタイルに合わせたロッド配列習得、各種巻き方習得、スタイルとロッド配列習得、ストレートパーマ習得。 |

| 具体的な内容 | | |
|------------------|----|--|
| 項目 | 時間 | 内 容 |
| パーマ基本技術 | 3 | パーマのお客様のカウンセリング～施術工程 パーマ施術前準備・スティック・ターパン・黒ゴム 1剤2剤の塗布・ヘッドキヤップ・ロッドアウト |
| 巻き方の検証 | 4 | スタイル別にグループ分けをして、薬剤選定・ロッド選定を行い実践 仕上がりイメージの共有 |
| 巻き方の応用 | 20 | ピンパーマの施術工程・実践、スタンドアップ・フォワード・リバース ピンパーマのスタイル作成(ウルフ系パーマ)、バリエーション①(ピンパーマ+ロッド) ピンパーマのスタイル作成(ショートレイヤー)、バリエーション②(ピンパーマのみ) 縦巻きの施術工程・実践、リバース巻き・フォワード巻きについて・注意点 スパイラル巻き・中間・根元巻きの施術工程、レギュラーロッドでの実践 ウェーブの出方 スパイラル巻き・中間・根元巻きの施術工程、ロングロッドでの実践 ウェーブの出方 水巻きとつけ巻きについて、水巻きとつけ巻きのメリット・デメリット 豆ロッド(ベビーロッド)のワインディング、ロッドの種類・配列・収め方・スライスの取り方 リーゼント巻きベースでワインディング、巻き方と仕上がりのイメージ・サイドの収め方 下巻きの強化・セクションごとの強化、ロッドのミリ数別での強化 スピードアップ |
| パーマデザイン | 18 | パーマデザインをつくる3つのゾーンの役割、毛量調節&骨格補整の考え方 ビジュアルからのパーマデザインの実践、レイヤーベースのパーマデザイン ひし型シルエットに近づける為のポイント、アンダー・ミドルセクションのワインディング オーバーセクション・顔周りのワインディング、ロッドオンの状態・仕上がりの状態を共有 ビジュアルからのパーマデザインの実践、グラベースのパーマデザイン(レイヤーとの違い) ひし型シルエットに近づける為のポイント、アンダー・ミドルセクションのワインディング オーバーセクション・顔周りのワインディング、ロッドオンの状態・仕上がりの状態を共有 ボリュームコントロールのテクニックの実践・検証、スライス縦幅・横幅 巻き方・巻く方向を変える |
| 応用スタイルカットとの連動 | 22 | カットベースでパーマを考える |
| 縮毛矯正 (アイロン技術) | 14 | ストレートパーマ施術前準備・施術工程、カウンセリング～毛髪診断・薬剤選定 ストレートパーマのプロセスの復習、毛髪診断・薬剤選定の復習 ストレートパーマ1剤・2剤塗布の復習・強化、軟化チェック方法の復習・実践 アイロン技術スルーの基本について、根元・スルー・毛先の注意点 アイロン技術のプロッキングについて、パネルの引き出し方・コードの使い方 |

| 成績 | |
|------------|---|
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。 |

| 基本情報 | | | |
|-------|-----------|-------------|----|
| 講義名 | プロースタイリング | 実務経験のある者の授業 | ○ |
| 授業形態 | 実技 | 必修/選択 | 必修 |
| 授業時間数 | 1年次 | | |
| | 42 | | |

| 担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載) | |
|----------------------------|---|
| 職種 | 担当する教員の実務経験内容 |
| 美容師 | 社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。 |

| 授業内容 | |
|---------|--|
| 授業概要 | 社会に出て即戦力となるプロースタイリング技術を身につける。授業で身についた技術をサロン実習で活かし、実戦力を養う。 |
| 授業の到達目標 | プロースタイリング理論の理解、スタイリング剤の知識の理解、基本技術の習得(ブロー及びアイロン技術)、様々なスタイルのプロースタイリング習得、スタイリング剤の特徴と使い方習得 |

| 具体的な内容 | | |
|-------------------|----|--|
| 項目 | 時間 | 内 容 |
| ハンドブロー | 2 | ドライ・ハンドブロー・根元の起こし方 アップシステム・ダウンシステムの実践 |
| 内巻き | 2 | ブラシの持ち方・使い方・姿勢 ブラシの使い方・ドライヤーの角度・ブラシの抜き方・方向性 |
| アイロン | 3 | フォワード巻き・リバース巻き 根元巻き・毛先巻き・ミックス巻き 内巻き・外巻き・波ウェーブ |
| メンズ | 2 | ストレートアイロンの使い方、スタイリング剤の使用方法 束間の作り方 |
| スタイリング選定 | 1 | スタイリング剤の種類・特徴選定 |
| メンズ スタイリング実践 | 6 | スタイリング剤使用の実践 |
| レディース スタイリング実践 | 9 | スタイリング剤使用の実践 |
| 骨格に合わせたシステム | 3 | パネルの引き出し方(アップシステム、ダウンシステム、オンベース) |
| ブロー応用 | 9 | ブロー・アイロンの組み合わせ、ロング・ミディアム・ショート |
| パーマブロー | 5 | パーマスタイルのドライ・ブロー・スタイリング 縮毛矯正(ストレート)のドライ・ブロー・スタイリング |

| 成績 | |
|------------|---|
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。 |

| 基本情報 | | | |
|-------|-----|-------------|----|
| 講義名 | セット | 実務経験のある者の授業 | ○ |
| 授業形態 | 実技 | 必修/選択 | 必修 |
| 授業時間数 | 1年次 | | |
| | 30 | | |

| 担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載) | |
|----------------------------|---|
| 職種 | 担当する教員の実務経験内容 |
| 美容師 | 社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。 |

| 授業内容 | |
|---------|---|
| 授業概要 | 社会に出て即戦力となるセッテ技術を身につける。授業で身につけた技術をサロン実習で活かし、実戦力を養う。 |
| 授業の到達目標 | 基本技術の習得、バランスのきれいなスタイルを作成できる、スタイリング剤の選定・使用方法習得 |

| 具体的な内容 | | |
|------------|----|---|
| 項目 | 時間 | 内 容 |
| セット基礎技術 | 6 | スタイリング剤・アイロン・ホットカーラーの使用法(ベースの作り方) 逆毛の立て方、スライス・コームの使い方 一束まとめ・セットゴムのくくり方 抱き合わせ、土台～逆毛～抱き合わせ ピンの使い方、ピン打ちの復習 フロントの作り方 |
| アレンジ基礎技術 | 4 | 各種編み込み方法、表(裏)編み・表(裏)編み込み ぐるりんぱ・タイトロープ、方編みこみ フィッシュボーン・ウォーターフォール |
| アレンジスタイル作成 | 20 | アレンジスタイル作成(編みこみアレンジダウンスタイル、編み込みアレンジセット) アレンジスタイル(和装スタイル、洋装スタイル) アレンジスタイル(カジュアルダウン・デートスタイル) アレンジスタイル(結婚式2次会スタイル) |

| 成績 | |
|------------|---|
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。 |

| 基本情報 | | | |
|-------|-------|-------------|----|
| 講義名 | シャンプー | 実務経験のある者の授業 | ○ |
| 授業形態 | 実技 | 必修/選択 | 必修 |
| 授業時間数 | 1年次 | | |
| | 42 | | |

| 担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載) | |
|----------------------------|---|
| 職種 | 担当する教員の実務経験内容 |
| 美容師 | 社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。 |

| 授業内容 | |
|---------|---|
| 授業概要 | 社会に出て即戦力となるシャンプー技術を身につける。授業で身についた技術をサロン実習で活かし、実践力を養う。 |
| 授業の到達目標 | 気持ちが良く、汚れを確実に落とすシャンプーができる、ヘッドスパの施術ができる。 |

| 具体的な内容 | | |
|------------------------|----|---|
| 項目 | 時間 | 内 容 |
| トリートメント | 6 | 流れ・工程 タオル・クロスのつけ方、プレーン・泡立て・シャンプーの復習 目的・種類・ラインナップ・商材知識 髪質に合わせた理論、トリートメントの提案方法 トリートメントの工程・手技 |
| 乳化 | 9 | 乳化の目的 乳化のメカニズム 乳化の工程 乳化の手技 乳化の注意点 カラーのお客様を想定した乳化の実践 |
| ストレートプレーン | 3 | 知識・手法、注意点 |
| ブリーチ・ホイル プレーン&シャンプー | 3 | 知識・手法、注意点 |
| マニキュアプレーン& シャンプー | 3 | 知識・手法、注意点 |
| パーマ・縮毛矯正 プレーン&シャンプー | 3 | 知識・手法、注意点 |
| ヘッドスパ | 15 | スキャルプスパの工程確認 実践 マイクロスコープの使用方法、頭皮環境と薬剤知識 お客様を想定したヘッドスパの実践 ヘーケアスパの工程、種類・ラインナップ ヘーケアスパの提案方法、カウンセリングシートの活用方法 お客様を想定したヘーケアスパの実践 |

| 成績 | |
|------------|---|
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。 |

| 基本情報 | | | |
|-------|-------|-------------|----|
| 講義名 | 運営・接客 | 実務経験のある者の授業 | × |
| 授業形態 | 講義 | 必修/選択 | 必修 |
| 授業時間数 | 1年次 | | |
| | 32 | | |

| 担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載) | |
|----------------------------|---|
| 職種 | 担当する教員の実務経験内容 |
| 美容師 | 社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。 |

| 授業内容 | |
|---------|--|
| 授業概要 | 美容師として必要なカウンセリング及び接客の知識、技術を身につける。 相モデルの体験、他の技術と連動させる実践的な授業を行い、接客に対する気づきを促す。 |
| 授業の到達目標 | 各年代・ライフワークに合わせた話し方ができ話題が選べる、サロンワークでの接客理解、お客様の要望を聞き出すことができる(カウンセリング力) |

| 具体的な内容 | | |
|------------|----|--|
| 項目 | 時間 | 内 容 |
| 印象 | 1 | ・姿勢 態度(接客においての正しい姿勢、相手に好感を与える態度) |
| 基礎来店接客 | 3 | ・カルテ配布 お客様来店カルテを一人1枚記入しグループ内でカルテチェック 2人1組になり来店後の接客練習 自己紹介 カルテに基づいてお客様カウンセリング |
| 顧客診断及び毛髪診断 | 2 | ・お客様のタイプ別診断・ホームケアのヒアリング 毛髪診断(2人1組になり来店から髪質チェックを行う) カウンセリングシート |
| 店販 | 6 | ・店販商材の説明 ・効果的なアプローチ方法 ・相モデル実践 |
| カウンセリング | 14 | カウンセリングシート記入 応用(骨格、髪質、肌) 似合わせ ブリーチ・ホイル マニキュア パーマ ヘアアレンジ スパ 縮毛矯正 |
| 提案知識 | 6 | カラー提案 トリートメント提案 カット提案・アフターケア・店販 パーマ・ストレート・縮毛矯正提案 ヘアアレンジ提案 スパ提案 |

| 成績 | |
|------------|---|
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。 |

| 基本情報 | | | |
|-------|-----|-------------|----|
| 講義名 | 集客 | 実務経験のある者の授業 | × |
| 授業形態 | 講義 | 必修/選択 | 必修 |
| 授業時間数 | 1年次 | | |
| | 30 | | |

| 担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載) | |
|----------------------------|---------------|
| 職種 | 担当する教員の実務経験内容 |
| - | - |

| 授業内容 | |
|---------|---|
| 授業概要 | サロンでの運営管理、集客方法そのツールとしてのSNSの活用方法を学ぶ。 |
| 授業の到達目標 | サロン管理(顧客・売上・時間・在庫管理)ができる。サロン運営の理解と実践、撮影・SNSの使い方の理解。 |

| 具体的な内容 | | |
|---------|----|----------------------|
| 項目 | 時間 | 内 容 |
| SNS | 18 | SNSの授業、使用・発信方法、撮影、編集 |
| リーフデザイン | 12 | 集客媒体、分析、ブランディング戦略、作成 |

| 成績 | |
|------------|---|
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況、授業への取り組み姿勢、確認テスト、レポートの提出等を総合的に判断し、成績評価を行う。 |

| 基本情報 | | | |
|-------|------|-------------|----|
| 講義名 | 特別授業 | 実務経験のある者の授業 | × |
| 授業形態 | 講義 | 必修/選択 | 選択 |
| 授業時間数 | 1年次 | | |
| | 18 | | |

| 担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載) | |
|----------------------------|---------------|
| 職種 | 担当する教員の実務経験内容 |
| — | — |

| 授業内容 | |
|---------|--|
| 授業概要 | 商材メーカーによるカラー剤やパーマ液、ヘアケア製品やスタイリング製品等の、サロンで使用する商材の特長や注意点を実際の商品を使いながらレクチャーを受ける。また製品の品質や生産に関すること、美容界の情報等を授業。 |
| 授業の到達目標 | 実際に自分がお客様に使用する商材の特長を理解し店販でのセールスや施術時のカウンセリング時に展開できるようになる |

| 具体的な内容 | | |
|-------------|-----|------------------------|
| 項目 | 時間数 | 内 容 |
| カラー剤について | 6 | カラー剤やブリーチ材の特長、注意点 |
| パーマ剤について | 6 | パーマ剤、ストレートパーマ剤の特長、注意点 |
| ヘアケア等製品について | 6 | ヘアケア製品、コスメやスタイリング剤について |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 成績 | |
|------------|---|
| 成績評価の方法・基準 | 評価基準 |
| | 出席状況、授業への取り組み姿勢、確認テスト、レポートの提出等を総合的に判断し、成績評価を行う。 |

| 基本情報 | | | |
|-------|-----------|-------------|----|
| 講義名 | 総合技術(サロン) | 実務経験のある者の授業 | × |
| 授業形態 | 実習 | 必修/選択 | 選択 |
| 授業時間数 | 1年次 | | |
| | 933 | | |

| 担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載) | |
|----------------------------|---------------|
| 職種 | 担当する教員の実務経験内容 |
| - | - |

| 授業内容 | |
|---------|--|
| 授業概要 | 就職先での即戦力となれる接客力、実践的技術と知識を習得する。 必修授業では実施しない接客技術、カット・カラー・パーマのプラスアルファの知識技術を学ぶ。 |
| 授業の到達目標 | 即戦力となれる接客力、実践的技術と知識の習得。 接客技術、カット・カラー・パーマのプラスアルファの知識技術を学び、表現力の幅を広げる。 |

| 具体的な内容 | | |
|--------|-----|--|
| 項目 | 時間数 | 内 容 |
| サロン授業 | 72 | 受付方法 来店からご案内・次回予約から退店、受け付け方 ご案内～カウンセリングまでの流れ、次回予約・会計方法 電話対応:来店時のルール等マニュアル確認 1日の流れ:サロン開始前、〆作業 バックルームの使用方法 在庫チェック方法・洗濯機、乾燥機の使用方法 スタイリスト・アシスタントの違い 各役割、指示の出し方、引き継ぎ方 |
| テスト | 6 | 入客、店販、技術等テスト |
| サロン | 855 | 接客 案内～カウンセリングチェック 技術提供 最終確認 次回予約提案方法実践 改善会議 |

| 成績 | |
|------------|---|
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況、授業への取り組み姿勢、確認テスト、レポートの提出等を総合的に判断し、成績評価を行う。 |

| 基本情報 | | | |
|-------|-----|-------------|----|
| 講義名 | HR | 実務経験のある者の授業 | × |
| 授業形態 | 講義 | 必修/選択 | 選択 |
| 授業時間数 | 1年次 | | |
| | 156 | | |

| 担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載) | |
|----------------------------|---------------|
| 職種 | 担当する教員の実務経験内容 |
| - | - |

| 授業内容 | |
|---------|---|
| 授業概要 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒間のコミュニケーション向上。 イベントを通して美容の面白さや、多くの人の関わり合い・協調性を身に付ける。 |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 学生生活での一般常識や守らなければならないこと、チームで力を合わせ取り組む姿勢、社会に出てからの一般常識、その他知識習得を目標とする。 |

| 具体的内容 | | |
|-----------|-----|-------------------|
| 項目 | 時間数 | 内 容 |
| 個別弱点強化 | 78 | ・個々の苦手科目強化及び指導 |
| 進路相談 | 20 | ・希望就職先、職種類 |
| コミュニケーション | 20 | ・社会人・組織のコミュニケーション |
| HR | 24 | ・その他ホームルーム |
| その他学校行事 | 14 | ・行事 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 成績 | |
|------------|---|
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況、授業への取り組み姿勢、レポートの提出等を総合的に判断し、成績評価を行う。 |

| 基本情報 | | | |
|-------|----------|-------------|----|
| 講義名 | ヒューマンスキル | 実務経験のある者の授業 | × |
| 授業形態 | 講義 | 必修/選択 | 選択 |
| 授業時間数 | 1年次 | | |
| | 37 | | |

| 担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載) | |
|----------------------------|---------------|
| 職種 | 担当する教員の実務経験内容 |
| - | - |

| 授業内容 | |
|---------|--|
| 授業概要 | 職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくための必要なマナー・スキル・人間力を取得させる |
| 授業の到達目標 | 卒業後、業界・就職先にて技術だけでなく、社会人として、接客のプロとして即戦力で活躍できる人材に育成することを目標とする。 |

| 具体的な内容 | | |
|---------------------|-----|--|
| 項目 | 時間数 | 内 容 |
| 自己啓発ビジョン | 3 | なぜビジョンを持つ必要があるのか 職場に望むこと、職場から望まれること 色々なサロンの形態とオーナー、美容師と働き方、なりたい自分 |
| 積極性 | 4 | 消極的である事のデメリットとして、当事者意識(主体性・自主性) (ポジティブ・能動性) 目標と向かうべき方向 指示待ち族・失敗を恐れない エピソード紹介・ディスカッション |
| 考える力 | 4 | 目的を明確にする・自身の立ち位置を知る プロの考え方・学生の考え方 スタイリストの考え方・アシスタントの考え方 オーナーの考え方・従業員の考え方 成功者の考え方・自分自身に矢印を向ける |
| ホスピタリティ 思いやり・心遣い | 2 | 優しさ・思いやり・心遣い(相手の立場になる) エピソード紹介・ディスカッション (優しい人・冷たい人) エピソード紹介・ディスカッション(悪口・いじめ・SNS) |
| 耐える力 | 3 | 感情のコントロール、見た目のコントロール ディスカッション(耐える力の会得には何が必要か) 続けるということの重要性 |
| マナー | 3 | 在校生の見本であるプロ生 人を幸せにする仕事 良識・常識・DQN |
| ホスピタリティ 好印象 | 2 | 人は見た目が9割(第一印象) おしゃれについて(主張すること・タトゥー・ピアス) エピソード紹介・ディスカッション |
| 規律 | 3 | 社会人基礎力 ディスカッション |
| 自己啓発・信念・将来設計 | 5 | 成功者の考え方 ディスカッション |
| 自己啓発 耐える力・考える力 | 8 | 感情のコントロール・見た目のコントロール ディスカッション 軽率な行動 気づく力・課題発見力・計画する力 |

| 成績 | |
|------------|---|
| 成績評価の方法・基準 | 出席状況、授業への取り組み姿勢、確認テスト、レポートの提出等を総合的に判断し、成績評価を行う。 |